

＜ 今日の説教のポイント ルカによる福音書 20 章 20～26 節 ＞

1 (20) 昔も今も変わらない人間の狡猾さ。

ここを読むと、イエス様を陥れようとする人々の狡猾さと執念深さに驚かされます。しかし考えてみれば、情報統制して平気でフェイクニュースを流し、人々の心を支配しようとする行為が横行している今の時代も同じだと思わされます。昔も今も変わらない人間の狡猾さを思うとき、大きな世界政治の問題も、どんな時に私たち人間にこのような狡猾さが生じ、それを抑えられなくなるのかといった視点からも考える必要があるのではないのでしょうか。そのことは、イエス様が悪魔から誘惑を受けられた時の個所から教えられます (4:5～8)。すなわち、この世の権力を欲して神様を一番上に置くことを軽んじた時、人はどんな狡猾なことも行うようになるのです。

2 神様の御旨に適った務めを果たす為政者に従うことを教える教え。

今日の個所の主要なテーマ、イエス様が答えられた「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」は、一見、「神様に従う領域と皇帝に従う領域、二つがあるということか」と思われる答えです。しかしそれは 1 で見たように、イエス様が悪魔に答えられた内容から言ってもあり得ません。聖書全体から考えた時に与えられる答えは、王、皇帝、為政者が神様が彼らを立てられた意に沿ってその務めを果たしている時には民は彼らに仕えるし、神様もまたそれで良しとされる、彼らが神様が立てられた務めを果たさず、神様を軽んじ、自分のために民を支配した時、神様はその者を責め降ろされるし、民も従う必要はなく、むしろその非を指摘しなければならないし、していいのです (ヨハネ 19:10-11、I ペトロ 2:13-17、ローマ 13:1-17。また、旧約のイスラエルの諸王)。

信仰者はこの世を生きています。そこでなされる営みは全てこの世と関係しています (芸術もスポーツも)。よって、信仰者はこの世の政治と関わり無しではあり得ない存在であり、また、神様はこの世界全体が神様の祝福の中に置かれたものとなることを願っておられるのであり、そうなるために働く務めが信仰者と教会に託されています。人間の狡猾さが力を振るっている今の世界が変わって行くために福音を伝えていこうではありませんか (使徒言行録 4:19-20)。